市長コラム

弔（とむらう）

富岡 勝則

去る11月７日、朝霞市議会議長の陶山憲秀（すやまけんしゅう）さんが逝去されました。11月５日、突然体調を崩され救急搬送されたと聞き、私は心から病状の回復を祈るばかりでした。しかし願いは届きませんでした。私は市議会議員のときから陶山議長にお世話になっており、市長になった今も本当に頼りにさせていただいていただけに、訃報を聞いた時には目の前が真っ暗になる思いでした。約６年間議長を務められるなど、ほかの議員からも信望が厚く、いつも議会と執行部の調整役を努めていただきました。67歳という年齢はまだまだ若く、これからも重責を担っていかれる立場の方だっただけに本当に残念でなりません。家業と議員という二足のわらじを履かれ、本当に過密なスケジュールをこなしてこられただけに、これからはのんびりとされ、朝霞市の発展を見守っていただければと思います。心からご冥福をお祈りいたします。

さて、10月下旬から全国で自転車の取り締まりがとても厳しくなっています。これは、歩道を走行する自転車と歩行者の接触事故が多くなっているためです。道路交通法では、自転車は車道を走ることが原則となっていて、例外として、幅が２メートル以上ある指定された歩道や、13歳未満の子どもと70歳以上の高齢者の方は自転車で歩道を走行してもよいことになっています。しかし狭い歩道を疾走する自転車が後を絶ちません。先日も通勤途中に信号待ちをしていると、赤にもかかわらず自転車が突っ切って道路を横断し、人とぶつかりそうになりびっくりすることがありました。私は交通ルールが守られていない自転車の怖さを改めて感じました。

朝霞警察署でも取り締まりを強化しており、市内でブレーキのついていないピスト自転車の運転者２人を検挙しています。また、歩道を走る自転車には注意を喚起しています。いずれにしても自転車の事故をなくすには、われわれ一人ひとりのマナーの向上が必要です。大切な子どもたちや高齢の方を事故から守るためにも、自転車の運転マナーを守りましょう。また、朝霞市には、子どもたちが安心・安全に自転車に乗れるよう、自転車用ヘルメットを購入する際の補助制度がありますので、ぜひこちらもご利用ください。

ではまた。

朝霞市は男女平等を進めています

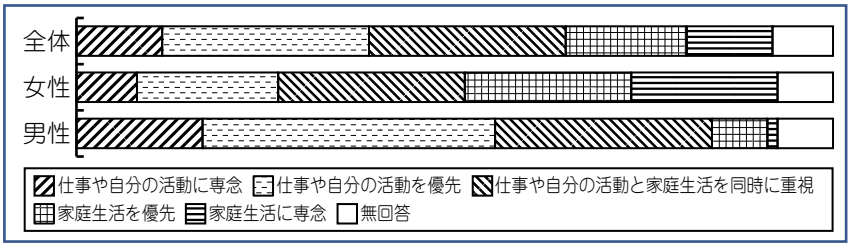
―市民意識調査結果から見えてきたこと⑨―
「仕事と家庭生活で何を優先するのか」

家庭生活で優先することとして、「現実」では、「どちらかといえば、家庭生活よりも仕事や自分の活動を優先」が26.9％で最も多く、次いで「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が26.0％、「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」が16.2％、「家庭生活（家事、子育て、介護）に専念」が11.8％となっています。

性別でみると、女性では、「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が24.8％、「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」が22.0％、「家庭生活（家事・子育て・介護）に専念」が19.1％となっています。男性では、「どちらかといえば、家庭生活よりも仕事や自分の活動を優先」が39.1％で最も多くなっています。

「希望」としては、「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が50.0％と最も多く、女性も男性もほぼ同じ傾向となっているにもかかわらず、現実の厳しい状況が数字に表れています。

家庭生活で何を優先するか（現実）



＊「朝霞市男女平等に関する市民意識調査」は平成22年６月に実施しました。

＊このコラムは、「朝霞市男女平等推進事業企画・運営協力員」との協働により掲載しています。

問／人権庶務課　内2255
☎463-2697

ひとの推移

人口	13万1,392人（－ 11人）	世帯数	5万9,518世帯（＋ 6世帯）
男	6万7,127人（＋ 28人）		
女	6万4,265人（－ 39人）		

平成23年11月1日現在（　）内は前月比

問…問い合わせ　内…内線